

認可地縁団体 高尾台町会 令和5年度 防災懇談会 議事録

(2丁目班)

日 時：令和5年 10月22日(日) 9:30~12:00

場 所：高尾台町会2丁目内及び町会会館 1階 集会室

出席者：防災力強化活動組織2丁目班、ぼうさい高尾台有志及び執行部
(計25名)

<議事内容>

・司会進行 眞田(2丁目) 副会長(記録)

・町会長挨拶

(要旨)

今朝はお忙しい中安否確認訓練、防災勉強会に参加いただきありがとうございました。日頃防災を忘れがちだと思いますが、防災を考える事は地域の防犯対策にも繋がっていく事だと思います。ぜひこの機会に地域の防災に目を向けていただき一緒に勉強させていただきたいと思います。

(1) 安否確認訓練

2丁目全町会員を対象に「安否確認タペストリー」の掲示を実施した。

・成果 実施(掲示)結果⇒ 94世帯/238世帯 約 39%

(2) 防災関係DVDの視聴

・平成30年度防災活動の記録

・災害に備える電波

(3) 防災勉強会(テーマ：防災知識と対策…講師；2丁目 今井 防災士)

日本は災害大国と言われている事を紹介。自身の阪神淡路大震災の被災体験を基に地震を中心とした情報と対策を共有した。

・各自の家の災害危険度をハザードマップで確認する事の重要性。

・地震での死者の殆どが家具や家屋の倒壊が原因だった事を紹介。

・2018年の岡山県での水害と2019年の長野県での水害の被害状況を比較。長野県の死者が圧倒的に少なかったのは以前に地域防災活動を徹底していた事が一因。

・地震による津波の脅威を実験映像で説明。来る前に避難が基本。

・①自宅の安全チェック、②地域の防災意識を高める事、③早めの避難と対策。

以上3点の必要性を再度共有した。

(北 町会長)

- ・昨年（令和4年）8月の豪雨時に、町内の一部で水害が発生した模様を紹介した。
- ・禅ヶ峯神社付近で土砂崩れが起きた箇所（ハザード MAP の箇所）を写真で共有した。

(越野 相談役)

- ・高尾台町会防災資機財として情報連絡用無線機、ポータブル発電機、ソーラーパネル、救急用品などを紹介。
- 今回の訓練、勉強会を各丁目毎としたのは小集団活動によって少しでもお互いの顔を見知って貰う事を目的としている。また、安否確認タペストリーの主旨は避難所開設の際安否確認カードに記載されていない住民の安否確認を効率的に行う為である。各自がタペストリーを活用することで有事の際の安全確認の煩雑さを軽減できると考える。

(4) 意見交換会

・北 町会長

今井防災士に対して「阪神淡路大震災の後、住民の防災意識に変化があったか」との質問あり。

今井防災士より「詳細は分からないが地震は恐ろしいと言う認識は常にある」との回答あり。

・川原 防災士（防火管理担当部長）

阪神淡路大震災と東日本大震災では被害の様子に大きな違いが見られた。前者は建物倒壊と火事、後者は津波による被害者が殆どだった。もし高尾台で大きな断層を起因とした地震が起きたとしたら、おそらく被害は阪神淡路大震災と同じになるのではないか。地域を理解し防災対策を考える必要がある。

(5) AEDの取り扱い体験（勝裕 総務部長）

- ・AED(10月3日に更改された機種)のデモ機を使った体験(3名ほど)。
- ・操作方法やパッドの貼る位置、胸骨圧迫の強さとタイミングを体験して頂いた。

(6) 非常食の試食体験

非常用おにぎり、かんぱん、保存水を各自持ち帰り、家庭で試食いただいた。

以上